

# 茅ヶ崎 自然の新聞



18年1月号(270号)

【編集】  
茅ヶ崎自然の新聞編集委員会

【発行】  
茅ヶ崎市文化資料館  
〒253-0055  
茅ヶ崎市中海岸2-2-18  
TEL&FAX: 0467-85-1733  
Mail: shiryokan@city.chigasaki.kanagawa.jp

## カンムリカイツブリ

2005年11月21日(月)9:00頃、この冬初めて、海岸でカンムリカイツブリを観察しました。しかも27羽と、最近では最多の個体数が確認されました。今年の冬の訪れが早いためでしょうか、例年に比べて約1ヶ月早く見られました。茅ヶ崎の海岸は集散地となっているのか、北から群れて渡って来た後多くが

各地へ分散し、3月には北へ帰るために再度集合する姿が見られます。特徴のある長い首とツッパリ調の冠羽が可愛い水鳥です。日本で長旅の疲れを癒すと共に生育する姿を見守っていきたいと思います。(1月現在、毎日3~8羽程が見られます。)



カンムリカイツブリ(茅ヶ崎海岸)



カンムリカイツブリの群れ(茅ヶ崎海岸)

(写真:奥野 攻)

(浜之郷 奥野 攻)

## 小出川の花暦

2005年11月22日 ここ数日、晴れた日が続いています。朝の冷え込みが一段ときびしく、風もつめたくなりました。「小出川の植物も花は終りかな。昆虫もいないかも。あとは渡り鳥たちに。」と期待をもって、集合場所の大曲橋に急ぎました。

今日は、大曲橋から左岸を上流へ2Km位までと決めて歩きました。まず出迎えてくれたのがシロノセンダングサです。浜園橋あたりでは、コセンダングサしかみつけられなかったので本当に嬉しくなりました。それも、あちらこちらに群生しているのです。

オギの穂が、銀色に美しく風になびいています。まだまだ沢山の花が咲いていました。ヒメシオン、イヌタデ、イヌホウズキ、セイタカアワダチソウ、ハキダメギク、ノコンギク、ヨメナ、その間にはノイバラの赤い実、マント群団がお互いからみあっています。オニドコロエビズル、ヘクソカズラ、ヤマノイモ等。ヤマノイモのムカゴを、仲間の1人が口に入れました。私はびっくりしました。生でたべられるとは知りませんでした。ゆでておつまみにしたりムカゴ御飯を1度作ってみようと思っていましたが、未だに実行していません。早速私も口にポイ。なるほど山芋のシャキシャキ感があり又ルリと食感は、いかにも元気が出そうな感じです。今度はノブドウかエビズルかと思い、葉を触ってみたところ、葉のフワフワ感でエビズルだとわかりました。黒く熟した実が沢山ぶらさがっていました。また口にポイ。甘くてすっぱく、とても濃い味で、ブルーベリーの様でおいしいです。いろいろな枯草で茶色の風

景の中、一段とつややかな緑が目立っていたのはヒガンバナの葉です。冬の間には沢山の陽を1人占めして球根を育てて来年の秋に美しい花を咲かせる準備ですね。

メダケが伸びて、川の流れがみえなくなっているところを抜け、明るい土手に出たところにタチヤナギや美しく黄葉したクヌギの木に出会いました。

セイタカアワダチソウに、ツマグロヒョウモンチョウの♀が吸蜜しているところでした。このチョウも温暖化で北上しているとのこと。ヨモギの葉に白い大きな綿のようなかたまりがついていました。触ってみると思ったより堅い感じです。虫コブの様ですがはっきり判りません。宿題です。

仙人草のタネが4個に分かれてその1個ずつに長い白いヒゲの様な羽根がついています。この羽根が風に乗って新しい大地に子孫を送り出しているのですね。この種をみると、なんて面白く芸術的に出来ているのだろうと思います。自然界のすべてのものが、何一つとしてムダはなく機能的でまた美しい型に出来ているといつも感心させられます。土手の草花たちにだけ見とれてばかりいられません。

コサギが飛び、ヤブの中でチッチッチとアオジが鳴き、コガモのオスの頭が美しい茶と緑の色帯に変わっているのを確認したり、オナガが木のてっぺんでゲーイキュイキュイと鳴いていたり、一番印象的だったのは、カワセミがホバリングしてエサをねらっているところを見ることが出来た事です。2回位繰り返していましたが、その後見失ってしまい、エサがとれたかどうか確認出来ませんでした。

名残惜しみながら帰り道を歩いている

と、アキアカネが仲間の胸のところにブローチの様にとましました。何と楽しいひとときだったでしょう。我が家について足元をみたら沢山のおみやげがついていました。チカラシバのタネとコセンダングサのタネでした。

(円蔵 高橋静子)

## 小出川の花暦

2005年10月25日、快晴。気楽に観察会をしてみようと誘いを受け2回目の小出川散策となりました。前回と同じ4人のメンバーです。10月も半ばなのに暑いくらい、気温は23度の予報です。少し風があるのが爽やかです。日陰の藪には、まだ蚊が健在でした。浜園橋の右岸から上流に、萩園橋の先まで同じコースをとりました。

まずセイタカアワダチソウは、花の少なくなった時に昆虫たちの蜜源になるとのを知り、前ほど嫌いで無くなりました。セイヨウタンポポ、ヒナタイノコズチ、クシゲメヒシバ、ホソアオゲイトウ、イシミカワ、ススキ、オギ、アキノノゲシ、チカラシバ、カゼクサ、ノイバラ、アメリカセンダングサ、ネズミノオ等、さすがに秋、実りの盛りでした。

イヌタデ、ノコンギク、カタバミ、タイアザミ、ヒメジオン、ヤブツルアズキ、ミソソバ、イヌホウズキ、ウシハコベ、イヌガラシ、が花盛り。オオバコ、オオオナモミ、ツユクサ、アサガオ、カナムグラ、ケアリタソウ、クワイに若い実がつき始めていました。

萩園橋の中間部は、土手の改修が終わり小さな芽吹きも始まっていました。旧土手の土を埋めもどしたので、どんな植物が出てくるか今後記録しておけたらと思います。

川面には、ミシシピーミミアカガメ、ゴイサギ、コサギ、マガモ、コガモ、カ

ルガモ、それにバンが見られたのはラッキーでした。キタテハ、ヒメアカタテハ、キチョウ、モンシロが健在、アキアカネとナツアカネを同時に見ました。

馴染み深い小出川ですが、ゆっくり歩いてみると新たな驚きと感動を与えてくれます。

(浜之郷 斎藤和子)

## おたよりをいただきました。

2005年10月22日(土)に行いました、「秋の自然観察会～芹沢の丘陵地を歩く」に参加された方からお便りいただきましたので、紹介します。

(以下、おたより)

『観測会では色々とありがとうございました。

持ち帰ったどんぐりや草花のスケッチと名前を調べ続けて、1週間がアッという間に過ぎてしまいました。

1点名前の調べられなかった物があるので質問に伺えるチャンスがあればと思っています。

これからも楽しい企画に参加出来る事を楽しみに待っています。

2005年10月30日』

(市内 安藤愛理&母)

## 訂正

9. 10合併号(第269号)に誤りがありましたので、お詫びし訂正いたします。(文化資料館)

8ページ

誤) Davallia maresii Moore ex Baker

正) Davallia maresii Moore ex Baker

誤) 春山行夫著「花の文化史—花の歴史をつくった人々—」

正) 春山行夫著「花の文化史—花の歴史をつくった人々—」

## 新しいクラゲ

2005年10月8日、平塚博物館の「漂着物を拾う会」で虹ヶ浜海岸に行った際、やや大型の肉厚なクラゲが打ちあがっていた。習慣的に、私を含めた会員のほとんどがミズクラゲとたかをくくって見過ごしていた。後で気が引けて、茅ヶ崎海岸には打ちあがっているだろうかと思案していた。

翌日9日、東海岸に同一種のものが4個体打ちあがっていた。



デジカメで早速記録をとり、江ノ島水族館に鑑定を仰いだ。ビゼンクラゲとメールがきた。藤沢ではシラス漁の網に入り込むと注釈がついていた。まず平塚博物館の浜口館長に写真を添付してメールを送った。折り返し実物が手に入らないかと要望があったが、残念ながら私の写真記録が最後になってしまった。茅ヶ崎市の海浜課やシラス漁業者に協力してくれるようお願いしたが、いまだに連絡はこない。県水産技術センター相模湾試験所にも問い合わせたが、湾内ではまだ漁業被害が出るほどに増加がないらしく期待した情報がなかった。

エチゼンクラゲは有名だが、ビゼンクラゲは陰に隠れて目立たなく、資料も少ない。相模湾試験所に文献での検索法を教えていただく。早速、藤沢有燐堂書店に問い合わせると1冊だけ在庫があると連絡があった。阪急コミュニケーション

ズという出版社の『クラゲガイドブック』には、「瀬戸内海、九州地方で見ることのできる青みがかった色のクラゲ、昔は瀬戸内海の児島湾で多く見られたが、現在は姿を消している。数は少ないが相模湾でも見る機会がある。」と記述されている。

(菱沼海岸 井川洋介)

## 清水谷にふしぎな…雨？

2005年11月22日、週に一度の清水谷保全作業の日、暖かな小春日和でした。

お昼を食べようと雑木林の脇の畑の縁に座ったとたんに、「お天気雨かしら」という長谷川さんの声に、「まさかー！」と見上げると、雲ひとつない、ぬけるような青空です。パラパラという音がするので、周りを見ると、落ち葉に点々と雨のあとがあります。投げ出した足の長靴にもあります。皆一斉に見上げると、頭の上には林から黄色く色づいたクヌギの枝が張り出し、一段上にはイヌシデが枝を伸ばしています。気をつけて見ると、座っている私たちの周りにだけ降っているようです。

「葉っぱの上に虫がいて、オシッコが落ちてきているんだよ」

「それにしても数が多すぎるよー。ものすごい虫がいるはずだよ？」

虫の姿はまったく見えません。

「木が葉を落とす頃だから、吸い上げた水がいらなくなって落ちてくるんだと思うよ」

「上空の氷の粒が溶けて雨になって降ってきてるんじゃないの？」

それにしても、木の下だけに降ってきています。畑の中央にはまったく雨は降っていません。

勝手な推測が飛び交いました。ときどき、ピチャッと大粒が顔に当たるので、

なめてみると無味無臭、サラッとしてまさに雨粒のようです。強い日差しにすぐ乾いて、濡れたあとも残りません。作業が終わった2時半頃、通ったときも同じような状況でした。

3日後の25日、文化資料館の野鳥調査は清水谷でした。この日も快晴、以前の謎の場所でお弁当を食べようと、みんなを誘いました。雨のようなものは、同じように降り続けています。13人全員が手をかざし、見上げて確認しました。やはり虫の姿は見えません。十メートルほど離れたクヌギの下には降っている様子もありません。その雨のようなものが降る下で食事をとりました。

最初の日から1週間後の29日、作業の日です。やっぱりその場所でお弁当を広げました。雨のようなものの量は少し減ったようです。クヌギはずいぶん落葉がすすんでいました。残った葉っぱからしずくが落ちているのを今日も確認しました。この日は木道脇のコナラからも降っているのをみつけました。

この雨は一体何でしょう?夜の間は?ご存知の方は教えてください。

(清水谷保全作業ボランティア一同)

## 11月柳島の花暦

2005年11月9日(水)、いつまでも暑い夏が去らず待たれる秋でしたが、暦は11月、植物達は確実に「実」の季節を迎えていました。いつものようにキャンプ場わきの道・キャン場内・海岸で、じっくりと植物の状態を観察しました。

9日は事務所が開いていたので、ご挨拶をしてキャンプ場内を見せていただきました。

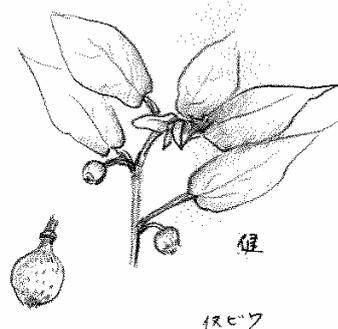
浜の植物の保護地は草刈がなされしっかり管理され、大きな株のハマボウフウをいくつも見る事ができました。キャンプ場管理の大変さも伺うことができま

した。

樹林地では、ツルオオバマサキ、サンゴジュ、トベラ等の赤い実。エノキの黄色、シャリンバイ、イヌビワの黒色の実。<sup>かすら</sup>蔓植物のノブドウやヒヨドリジョウゴ、またアオツツラフジなどの実を見ることができました。そしてアキグミの酸味の強さ、アオツツラフジの意外な甘さも経験しました。花を咲かせている種は少ない季節ですが、キクの仲間のセイヨウタンポポ、オニタビラコ、コセンダングサ、センダングサ、セイトカアワダチソウが、そのほかコマツヨイグサ、カタバミ、ツルナの黄色の花が、日だまりに咲いていました。

キャンプ場内を歩いている時、コセンダングサだとばかり思い込んでいた株に黄色い舌状花(花びら)が目立つ株を何株か見つけ、「これがセンダングサ!」と3人で思わず声をあげてしまいました。普段私達が目にするのは、舌状花のない頭状花ばかりのコセンダングサと、白い花びらがわずかにあるコシロノセンダングサなのです。

センダングサは自然帰化といわれ、古い時代の帰化植物で、今は減少しつつある種とされています。時期がよかったのと、このキャンプ場はセンダングサが住みやすい良い環境であるため、何株も根づいてくれたのだと思いました。また同じ場所を毎月歩けるといのは、植物の成長が見られ、新しい発見や出会いがあるのだと思いました。



銀

イボフ

(東海岸 斎藤 溢子)

## 小出川の花暦④

2005年12月9日、最高気温13℃の予報でしたが、2、3日前までは暖かい日が続いたので寒く感じた日でした。

4人揃って大曲橋から上流に歩き始めるとダイサギが3羽ほど上空を左に飛んで行くのが見えました。前回に観察したコシロノセンダングサの花を付けているものがまだ多くあり、イヌホウズキの仲間やノコンギク、ノゲシ、セイヨウタンポポ、ウシハコベなどの花も見ることが出来ました。

実のなっているものは、セイタカアワダチソウ、イヌタデ、アキノノゲシ、オオアレチノギク、チカラシバ、ギシギシ、シロザなどです。

赤い実のノイバラやマユミ、青い黒い実のエビヅルがありました。先月欠席したFさんに「ブルーベリィみたいで、美味しかったよ」と味見をしてもらおうと、日が経って傷んでいたようで美味しいとはは言いませんでした。

聖天橋近くまで行く途中の湿地になっている所に行くと、Sさんがどんどん入って行って、「この場所は小出川に親しむ会が是非残して欲しいと考えている所なのよね。」と言いました。タチヤナギやジャヤナギがあるところなのですがマツも7本ありました。

一見すると何の活用も出来ないような場所ですが、川沿いであることで大雨の時には溢水を防ぐための遊水地になります。わざわざ遊水地を作らなくとも、このような場所を確保できれば良いのと思いますが、いろいろな事情があるのでしょう。

以前はこのような場所が多くあったのですが、ぎりぎりまで人間が利用するために湿地は無用なものとしてほとんどなくなってしまっています。何とか残したい場所ですが、小出川の土手付近は所々

が寒川町の管理になっていることも保全を難しくしています。橋の近くで竹を切っている男性に話を聞くと寒川の方で、野菜の霜よけや支柱にするのに竹を取りに来ているとの事でした。

帰り道では、シジュウカラの声が良く聞こえてきました。

最後の楽しみは西久保耕地でタゲリを見ることでした。今朝その場所を通ると7人程のギャラリーが農道にいて、私は養護学校から観察したのですが、タゲリは見ることが出来ませんでした。

土手に戻って北側から農地を見ると、嬉しいことに4羽が確認できました。初めてタゲリを見るという仲間がいて、思った通りに感激していました。彼女は今年初めてタゲリ米を買ってくれていました。タゲリ米を炊いた日に家族がお米が変わったことに気づき、お弁当に持って行って冷めても美味しかったとお嬢さんたちが喜んでいと聞いて、すごく嬉しかったです。

湘南タゲリ米を作っている三翠会に参加し、お米作りを手伝って3年ほどになりますが、お世話してくださる鈴木さんや小西さんのおかげで、いろいろなことを楽しく教えてもらっています。今年は一組の若い親子さんが来られて、もくもくと働くので随分はかどりました。2006年も新しい参加者がたくさん来て輪が広がって行って欲しいものです。

(浜之郷 河野正子)

## 県立座間谷戸山公園を見学して

2005年10月2日、以前より丸山一子さんをお願いしていた座間の谷戸山公園を案内していただきました。丸山さんは現在、茅ヶ崎市環境政策課で行われている自然環境調査評価ワーキングに参加され、両生爬虫類の専門家として昨年より1年間ほど茅ヶ崎市内を隈なく徒歩や

自転車で調査されました。また、7月3日の環境フェア自然環境講演会「カエルから見た茅ヶ崎の自然」の講師をしていただいた方です。

丸山さんは、県立谷戸山公園の環境調査を4年ほど前に依頼され、その後の運営会議に専門委員としてボランティアとして毎月出席されていることをお聞きしていたので、ぜひ茅ヶ崎の里山公園を考える時の参考にしたいと、柳谷の自然に学ぶ会の野田さんと一緒に伺いました。

午前中は別の専門委員の方が主に公園内を案内してくださいました。この方は、以前の環境調査の折にコンサルタントとして関わった方で、午後の会議の議題になっていた「今後の谷戸山各ゾーンエリアの管理について」を、案内しながら現地で分りやすく説明してくださいましたので、午後の会議で様子がよく解って有り難かったです。

昼食は、里山体験館の傍<sup>そば</sup>の丸太の椅子で3人並んで食べながら、目の前の田んぼのある里山の景色を楽しみました。昼食後に歩き始めると、すぐススキの根元にナンバンギセルを発見しました。移動する途中の北谷戸や、わきみずの谷近くの木道は整備されていて、方向を変える踊り場のような場所は直径4m程の円を60度ほど切り取ってある形がユニークで、下の湿地が覗けるのが嬉しいことです。またどんどん歩いて、やっと午後の会議場所のログハウスに到着しました。この施設とは別に公園の北側にはパークセンターがあり、合わせて3つのトイレつきの施設が完備されていました。

午後の会議のメンバーは多彩で、相模土木事務所、公園協会職員、自然団体、公園利用団体、学生ボランティア、それに丸山さんと前述の専門委員の二人で、この日は20名以上は居たと思います

会議資料では、昆虫の森、野鳥観察小屋、クヌギコナラ観察林、シラカシ観

察林などの場所ごとに公園計画時の内容や現況・問題点など、保護・保全・改善・復元・強化・創出の対応と対策、実施担当と項目が細かく分けられ、詳しい内容が書かれていました。この日の提案が太字で示され、初めて公園を見た私にも解りやすく納得のいく内容で嬉しくなりました。

園路から見えるような場所は、来園者にも経過を見てもらえるような手入れを考えたり、常緑樹が密生してほとんど林床植物が生えていない場所から除伐を始めてモニタリングしていく、伐採樹木は園路の脇に積んだり、細かな枝や葉は林床に敷きこむなどの丁寧な説明が書かれていて、保全作業に参加したい気持ちにさせられました。

このような内容は、私が昨年より参加している茅ヶ崎の「市民の森再整備ワーキング」の活動にも、規模は違いますが参考にできるのではないかと思います。

午後から丸山さんに案内してもらっていて特に印象に残ったことは、この公園の湧き水は茅ヶ崎と比べて水量が随分少ないということでした。谷戸で、これだけの広さがあるのに何故と思いましたが、公園の標高が98mであり、地形や水の道の関係など面白いものだと思います。

自然の中で、いろいろなことを教えていただいて、丸山さんに感謝しつつ、爽やかな豊かな気持ちで帰途につきました。

(浜之郷 河野正子)

////////////////////////////////////

<県立谷戸山公園>

●所在地

神奈川県座間市入谷3丁目

【電車】小田急座間駅または、相武台前駅から徒歩約15分

●ホームページ

<http://www.zamayatoyama.kanagawa-park.or.jp/>

浜見平のテングタケ科

浜見平のテングタケ科  
私は1/5にテングタケ科のテングタケ  
属のテングタケタマシを見つけた。  
つぼはとれやすめが、音がな  
かったがちゃんとつぼはあった。  
かさにはパ、チシウの物が入り  
時にかさをよおい守りて(まの)か  
のっている。日がたつてゆくらに  
かさの真ん中がくぼみはゆる。  
柄はうす卵色でかさは茶色  
だ。

スダシヤアカリコナなどの木の  
の根本に生えている。にている  
きのこは「テングタケ」だ。かさのパ  
チシウの物は「テングタケタマシ

よりかや平べた。どちらに出、  
毒があるのど気な。た方がよい。  
テングタケ科は食べれるキノコもあ  
るが食べると中毒する物が多い。  
なのでテングタケ科のくちゅうをきい  
ておろ。まず一つ目は「つぼ」とつぼが  
あるという。これはひな物は少なく  
あるとしたら「ニテングタケ」と  
いうキノコくらいだ。かさも柄も  
肉質で大きめの物が多い。  
ゆめなとくちゅうをみんなに知ら  
せたら、キノコじけんも少くないと  
思う。

毒しい一日でありました。



(写真撮影: 溝尻あかね)

追記: つぼからの高さは19センチ傘は  
直径13センチです。

(市内 溝尻あかね)



コセンダングサ

T. ASABA

## 文化資料館からお詫びとお知らせ

新年あけましておめでとうございます。  
本年もよろしくお願いいたします。

今回、「茅ヶ崎自然の新聞」の発行が、文化資料館の事業等の都合により大変遅れてしまい、いただいていた記事をタイムリーに皆様のもとにお届けすることができず申し訳ありませんでした。記事を投稿していただいた皆様には、この場を借りてお詫びいたします。また11月・12月を合併号で発行する予定でしたが、発行時期の関係から1月号として発行させていただきましたこと、ご理解いただければ幸いです。

今後は記事が集まり次第、隔月で定期

的に発行いたしますので、よろしくお願いいたします。また平成18年度中に、文化資料館のホームページ上に本紙に投稿していただいた記事を、すぐにインターネット上に掲載し、多くの方がオンタイムで茅ヶ崎の自然の情報を共有できるよう、当館のホームページを整備することを検討しております。ホームページに関しては、目処がつき次第おって本紙及びホームページでお知らせいたします。

多くの方の記事の投稿をお待ちしております。

（文化資料館）

## 市外自然観察会「春の大磯・高麗山を歩く」

大磯町の高麗山を散策しながら、春の自然を楽しみます。

- とき：3月18日（土）9時30分JR大磯駅集合、12時現地解散（雨天中止）
- 行き先：大磯町高麗山
- 案内人：北水慶一（大磯町郷土資料館学芸員）
- 定員：先着20人
- 持ってくるもの：電車代190円、筆記用具、双眼鏡（持っている人）、歩きやすく地味な服装
- 申し込み：3月1日（木）～電話で文化資料館まで（電話85-1733）



Information

案内

おしらせ

- 「茅ヶ崎自然に親しむ会」  
『藤沢・引地川親水公園で野鳥観察』  
日時：2月19日(日)  
問い合わせは  
安井利子(52-3856)まで
- 「清水谷を愛する会」  
『総会』  
日時：2月5日(日)9時30分  
～15時  
集合場所：市民の森駐車場(堤)  
問い合わせは  
田部許子(51-2955)まで
- 「柳谷の自然に学ぶ会」  
『早春の谷戸をみよう』  
日時：2月26日(日)  
集合場所：里山公園  
問い合わせは、  
野田晴美(51-8489)まで
- 「三翠会」  
三翠会では、市内の川や水辺の生きもの調査やタゲリをはじめとする野鳥観察、お米(タゲリ米)づくりのお手伝いなどに取り組んでいます。ご協力いただける方は、下記までご連絡下さい。  
事務局：河村まき子(87-8313)
- 「大庭自然探偵団」  
『遠藤笹窪谷』  
日時：2月12日(日)  
10時～14時  
問い合わせは、滝沢まで  
(0466-88-5306 夜間)
- 「駒寄川水と緑と風の会」  
『バードウォッチング』  
日時：2月5日(日)  
問い合わせは、  
池田尚子(52-8919)まで

★ 次号の原稿の締め切りは、3月4日(土)までにお願いいたします。

★ 文化資料館のホームページを、更新しています！チェックしてみてください。

<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/newsection/shougaku/shiryokan/index.html>

★ 「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館」のホームページをみましょう！

[http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/newsection/shougaku/bunkazai/marugoto/index\\_marugoto.html](http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/newsection/shougaku/bunkazai/marugoto/index_marugoto.html)

記事募集！

自然の新聞では、様々な方からの投稿をお待ちしております。メール、fax、手紙でOKです。

FAX：0467-85-1733

メールアドレス：

[shiryokan@city.chigasaki.kanagawa.jp](mailto:shiryokan@city.chigasaki.kanagawa.jp)  
までよろしく申し上げます。

編集後記

発行遅れて申し訳ありませんでした。楽しみにしていた方、記事を投稿していた方、本当にすいませんでした。ここ数ヶ月、2/4(土)から開催する特別展「ちがさきの食文化と道具たち」の準備に奔走する日々が続いております。風邪を引かぬよう、気をつけたいと思います。皆様もお気をつけください。特別展にはお誘い合わせの上、ぜひご来館ください。

(文化資料館 須藤)